

香川医療生協 医学生 奨学生 募集中。

奨学金制度 の趣旨

この奨学金制度は、医学部卒業後に香川医療生協・香川民医連の病院で研修し、地域医療に参加しようとする医学生を対象に、勉学などの経済的な援助を行う目的で設けています。

奨学金概要

一般	1～2年生	5万円/月額
	3～4年生	6万円/月額
	5～6年生	7万円/月額
特別	全学年	12万円/月額

※返済免除規定あり

奨学生になったら

- point ① 全国の医学生と学び合えるチャンス！
- point ② 低学年から病院実習をかさねて将来の医師像を掴める！
- point ③ 学生生活中的サポートが手厚い！

高校生予約奨学金制度
もあります。

申し込みは随時受け付けています。お気軽にお問い合わせください。

香川医療生活協同組合

厚生労働省 指定臨床研修病院 高松平和病院



学生サポートセンターみき



お問合せ・連絡先

高松平和病院

学生担当 / 中田、野口、花谷
tel.070-1258-6360 mail:heiwhp@gmail.com

香川民主医療機関連合会
高松市栗林町1-6-4
tel.087-836-9375
fax.087-836-9376



2016.9リニューアル

<http://www.heiwhp.com/>

高松平和病院 医学生・研修医のページ

検索

～日々の学習企画案内・報告をblogで随時更新中～

編集 後記

KIMAIの記事にもありますが、夏休みが始まると医師体験・病院実習など未来のお医者さんとお会いする機会が増えます。学生さんから元気をもらって暑い夏も無事にのりきりたいです。
(花谷)



〒760-8530 高松市栗林町1-4-1
tel.087-833-8113(代表) fax.087-833-8759



〒761-0701 木田郡三木町池戸1538-1森ハイツ1F

発行元：香川民主医療機関連合会

2017 SUMMER

KIMAI



医学生と香川民医連を
むすぶ情報誌。

CONTENTS

- ・キラッとかがやく医師のしごと
- ・病院実習
- ・研修医日記
- ・合格おめでとう会
- ・高校生の広場

香川民主医療機関連合会

※キマイ＝讃岐(さぬき)弁で「来てね」という意味



香川民医連 ^{＊うつく} かがやく医師のしごと

緩和ケアとは、がんや重い病を抱える患者やその家族一人一人の身体や心などの様々なつらさをやわらげ、より豊かな人生を送ることができるように支えていくケアのことです。

日頃現場で奮闘する大西綾花医師にお聞きしました。

がんとわかったときからはじまる緩和ケア

想像してください。今あなたが、がんと告知されたら？

これからどんな症状が出てくるのか、治る見込みはあるのか、今までと同じような生活を送ることができるのか、治療費はどうなるのだろう、家族に負担をかけないだろうか、今ここでなぜ私は生きているのだろう、、、など様々なことを思い考え、苦しむでしょう。がんと診断された時から、あなたは「患者」となり、様々な苦痛を生じます。そして、あなたの家族も、あなたのことを思い苦痛を抱えることになると思います。

緩和ケアは、病気と診断され、患者・家族が苦痛を感じたときから受けることができます。

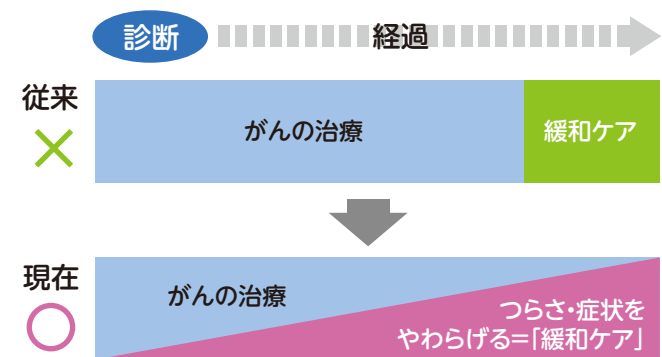
一般的な定義では、緩和ケアとは、命を脅かす病に関連する問題に直面している患者と家族の痛み、その他の身体的、心理社会的、スピリチュアルな問題を早期に確認し適切に評価し対応することを通して、苦痛を予防し緩和することにより、患者と家

族の※ Quality of Lifeを改善する取り組みのことを言います。(WHO2002年)

つまり、苦痛を和らげ、その人らしく豊かな生活ができるように行うアプローチのことです。そして緩和ケアは、がん患者だけでなく、心不全や※ COPDなどの非がん患者でも必要とされています。

しかし、今の日本の医療制度では、緩和ケア病棟の入院対象疾患は、がん患者と後天性免疫不全症

WHO(世界保健機構)の緩和ケアの考え方



※ Quality of Life：一人一人の人生の内容や質

※ COPD：慢性閉塞性肺疾患



▲患者さんと一緒に病棟から見える栗林公園の木々を眺める大西医師

候群（エイズ）の患者に限られています。そのため、緩和ケア＝がん疾患、というイメージが強くなるようです。

当院のホスピス・緩和ケア病棟は、2011年7月に高松市で初めての緩和ケア病棟として開設されています。医療生協の病院であり、差額ベッド代はいただいております。

当病棟の理念は、「その人らしく生きていけるように」です。患者・家族と当病棟スタッフがチームとなり、身体と心の苦痛緩和に取り組んでいます。

また、当病棟への入院希望がある場合は、緩和ケア相談外来の受診が必要です。その際に、現在の病状や患者・家族の病に対する思いや今後の意向などを伺い、今後の療養について相談を行っています。

疾患による症状が強くなり入院での症状緩和が必要となったときや、病状進行で命が差し迫った状態に

なったときに、当病棟の入院適応となります。相談外来で患者・家族から、「緩和ケア病棟に入院したら亡くなるまで退院できないのではないのか」「緩和ケア病棟へきたら何も治療もしてくれないのではないのか」という質問をされることがあります。それは誤解です！

病状や症状が安定すれば、退院は可能です。次の療養場所でも、安心して過ごすことができるように、患者・家族の不安や心配な点を伺いながら、退院支援を行っています。

そして当病棟では、病を治すための治療は行っていないませんが、苦痛緩和を目的として、鎮痛剤などの薬剤の使用や点滴、酸素投与は行っています。点滴の内容や病状の時期によって異なりますが、点滴が身体的苦痛へつながることもあるため、患者・家族の意向を伺いながら、個別で相談・検討を行っています。

当病棟の構成スタッフは、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー、リハビリスタッフ、薬剤師、管理栄養士、ボランティアです。毎日朝と昼の時間に、多職種でカンファレンスを行い、患者・家族の病状や症状について情報共有をし、苦痛症状を緩和しその人らしく生きていけるように、ということに意識を向け意見交換を行っています。

大西 綾花 医師

Doctor Ayaka Onishi

profile

高松平和病院 緩和ケア内科

香川県出身 香川大学2008年卒

高松第一高等学校卒



また、倫理カンファレンスや、当病棟で亡くなられた方の治療やケアの振り返り（※デスカンファレンス）も多職種で行っています。時には、患者・家族の対応にスタッフ自身が悩み、苦痛を感じることもあります。その際には、スタッフ自身が何に困り、苦痛を感じているのか、ということ、カンファレンスの中で共有し、スタッフの苦痛を和らげる時間にもなっています。

以上、簡単にはなりましたが、高松平和病院のホスピス・緩和ケア病棟の紹介をさせていただきました。

どんな病であろうとも、患者・家族が苦痛を感じたときから緩和ケアは必要です。全ての医療者が、どの医療現場でも、患者・家族がその人らしく最後の

時まで生きることができるように、患者・家族の思いに耳を傾け続けることが大切だと思います。

最後にホスピスの母である、シシリー・ソングーズ医師の言葉を送ります。

「あなたはあなたであるから重要であり、あなたの人生の最後の時まで重要です。私達はあなたが平安のうちに死ぬことができるだけでなく、最後まで生きることができるように、できる限りのことをさせていただきます」

(You matter because you are you. You matter to the last moment of your life, and we will do all we can not only to help you die peacefully, but live until you die.)

患者さんご家族を支援する「緩和ケアチーム」

看護師

緩和ケアに関する専門的な知識や技術を持つ認定看護師などが支援します。



ボランティア

毎週2回病棟で「お花を飾る・コーヒーサービス・アロママッサージ」などの活動を行って、少しでも気持ちよく入院生活が送れるように活動しています。



薬剤師

痛みなどの症状をやわらげるための薬についての説明や指導を行います。



医師

がんに伴う様々な症状をやわらげます。



管理栄養士

入院中に本人が食べやすいように献立・味付け・盛付けの工夫を行っています。



様々な専門分野のスタッフが「緩和ケアチーム」として患者さんご家族を支援します。

医療ソーシャルワーカー

医療費など経済面での問題や、入院、生活面の相談を受けたり、社会的サービスや在宅医療を受けるための支援を行います。



リハビリスタッフ

本人が希望されるリハビリ(マッサージや訓練等)を行いその人らしい生活が送れるようにお手伝いします。



※デスカンファレンス：亡くなった患者さんに対して行われるもので、今後より良いケアを患者さんに提供していくために、意見を交換しあって問題点や改善点をあきらかにして、次に活かすためのものです。



Interview

Q 趣味は？

A フラワーアレンジメントです。集中して作成する事がリフレッシュにつながっています。

Q オススメの音楽は？

A 「ハナレグミ」です。声が好きで聴くだけでここが癒されます。

Q 休日は何をしていますか？

A 料理を作ったりしています。最近では「みそ汁」をこだわった材料で作っていて、美味しい「みそ」を求めて「道の駅」まで足を運んでいます。

Q 医師を目指したきっかけは？

A 小さい時から、祖父母の診察について行ったりして病院自体が身近な存在でした。

「ER」という海外ドラマを高校生の時にみて、医師という仕事に興味を持ちました。

そんな時、高松平和病院の医師体験に参加して女医さんと交流する機会がありました。病気の事以外で医師と話すのが初めてで、その女医さんが「医師はやりがいがある仕事です!」と自信を持って話されたのがとても印象的で、自分も医師として働きたいと思いました。

Q 緩和ケア内科医になろうと思ったきっかけは？

A 研修でいろいろな科で勉強していく中で、常に「その人が、その人らしく生きていく」事を考えながら患者さんと接してきました。その流れから、従来の「延命」という考え方に代わり、人生の最期に、人の心や体の痛みを和らげることに重点をおき、最後まで「その人が、その人らしく」を追求したいと考えたからです。



香川医療生活協同組合では、随時病院実習の受け入れを行っています。
医学生が興味のある内容の実習ができます。
今まで行われた高松平和病院での特徴ある病院実習を少しご紹介します。

当院には香川県でもまだ珍しい
ホスピス緩和ケア病棟があります。

ホスピス緩和ケア病棟



▲緩和ケア病棟カンファレンス

「カンファレンスの参加」

様々な職種が集まって患者さんやそのご家族をサポートする為にいろいろな視点から治療方針を立てています。患者さんの立場を最優先に考えたカンファレンスは学生が見ても感動するそうです。



▲緩和ケアボランティア

「ホスピス緩和ケアボランティアの体験」

当院では患者さんが少しでも心地よく入院生活が送れるように一般ボランティアの方たちがコーヒーサービスやお花を飾ったりしています。コーヒーサービスでは患者様から直接お礼の言葉を掛けて頂いて喜びを感じるそうです。



- 医師が患者さんと信頼関係を築く過程を学ぶ事ができました。また、患者さん家族との関係性も診療に大切だと思いました。
- 緩和ケア病棟で学んだ「患者さんの気持ちを受け止めること」はどこかの診療科で働いていても大切な事で、学んだ気持ちを大切に今後も学習していきたいです。
- 他職種が連携しチームとして患者さんの※ QOLを高めようとしていて、普段勉強していて“チーム医療”という言葉はたくさん出てくるけど、今までは漠然とした概念だったが、目の前で見る事が出来て、今後どのような視点で見なければ、ということの参考になりました。

※ QOL：一人一人の人生の内容や質

主治医と一緒に一人の
患者さんの担当をしてもらいます。

受持ち患者体験実習

入院中の患者さんの担当医になって、学生さん用に作成された紙カルテを使いながら、患者さんの問診等を行ってもらいます。そうし

た事から患者さんの生活背景や労働環境を把握して、主治医にアドバイスをもらいながら現病歴を理解していく実習です。



- 患者さんからいろいろな話を聞くことができ有意義な時間が持てました。さらに患者さんの話を引き出すにはどのようなアプローチをするべきなのか考えるきっかけになりました。

患者さんご自宅や入居施設へ
訪問診療

訪問診療同行



▲訪問診療



- 患者さんをさすってあげると気持ちよさそうに笑ってくれて嬉しくなりました。同行させて頂いた医師の対応力の高さに感動しました。

当院に在籍している病理医から
組織の様々な勉強を教えてもらえます。

病理室実習



▲病理の見学



- 乳がんの標本作成を初めて見る事ができ、病理医の方が器用で職人さんのようでした。きちんとがんの診断をおこなったり、診断から死後の病理解剖まで重要な仕事なのだと実感しました。

その他「内視鏡カメラの見学」「外来見学（内科・小児科・整形外科・乳腺）」「回復期リハビリ病棟の見学」「退院前訪問の同行」など、病院実習をして頂くことが出来ます。ぜひ、夏休みを利用して病院実習に来て下さい！
病院実習受入担当窓口：高松平和病院 医学生担当 中田・野口・花谷
TEL(代表):087-833-8113 E-mail:heiwhp@gmail.com
病院のホームページにも病院実習の記事が掲載されています。右のQRコードから、ホームページものぞいて見てください。





半山 栞 医師

Doctor Shiori Hanyama
Profile
高松平和病院 初期研修医
香川県出身
香川大学2017年卒業
高松高等学校卒

今年の4月から高松平和病院で初期研修医として働いています、半山栞といいます。生まれも育ちも香川県で、かれこれ20年以上はうどんを食べ続けています。高松高校を卒業し、香川大学医学部に入学しました。大学時代は、ラグビー部のマネージャーをする一方で、空いた時間でアルバイトをしてはバイト代と奨学金で長期休暇に頻繁に海外旅行に出かけ、勉強会のため全国各地へ行き、東北や広島など被災地支援のボランティアに行きと、頻繁に国外・県外に出ているように思います。趣味はスポーツと旅行です。ソフトボールを6年、ハンドボールを3年していました。最近体を動かす機会がなくさみしいですが、バッチョングセンターにはよく足を運んでいます。

今では考えられない事なのですが、私は小さい頃は体が弱く、頻繁に病院に行くような子供でした。病院の手前の角を曲がった瞬間に、大泣きしていたとよく母から聞かされます。入院中も点滴台を置いて動き回り、スタッフの方にはたくさん御迷惑をおかけしたそうです。病院通いで医師が身近な存在だったということと、ドラマの影響も受け、物心ついたときから「将来の夢はお医者さん」、が口癖になっていました。学生時代は、決して優秀とは言えず、テストで人に言えないような点数をとったこともしばしばありましたが、医者になる、という決心だけはぶれることなく持っており、その一心でなんとかここまでたどり着きました。

現在は主に内科病棟で研修をしています。まだま

研修医日記

研修医に日々の研修模様を
語ってもらいます



だ分からないこと・できないことが多く、一人でよくあたふたしていますが、高松平和病院では、医師の先生方だけでなく、たくさんのコメディカルスタッフの方々がみんなで研修医を育てようという気持ちを持ってってくれています。いろいろなことを気にかけてくれて、わからないことが聞きやすい環境にあることは、この病院を選んでよかったことの一つです。これから、医学について学ぶことに加えて、患者さんと向き合って、今その人が一番困っていること・必要としていることはなにか、それを常に考えていける医師を目指して少しずつステップアップしていきたいと思います。以上、簡単にではありますが、私の自己紹介と現状報告とさせていただきます。これからどうぞよろしくをお願いします。



▲安田医師・半山医師の歓迎会



▲医局に新しい風を吹かせてくれています。

こんにちは。4月から高松平和病院で勤務しています安田理です。万博記念公園のある大阪府吹田市出身です。私の経歴は少しかわっています。というのも一度企業に就職していましたが、海外で生活したいと思い立ち退職。青年海外協力隊に所属し2年間エチオピアでパソコン等を教える仕事に就いていました。帰国後、昔から憧れていた医師を志し香川大学医学部に入学。40歳で医師となりました。そのため見た目はベテラン医師のようですが、実は卒後3年目のまだまだ新米医師です。

家庭生活では3月に第一子となる女の子が生まれ、可愛い表情や仕草に毎日癒されています。帰宅後はもくよくよく沐浴をしたりゲップをさせたり…時々泣いて大変なときもありますが、楽しく育児をしています。

そのため今年は父親として、また新しい場所で後期研修医としてスタートを切った、新たな春を迎えることができました。

4月からは外来枠を担当させて頂いたり、上級医の先生と一緒に当直も始まりました。外来は今まで経験がなかったのではじめは緊張しましたが、顔馴染みの患者さんもでき、定期的にフォローできるところに楽しさを感じています。夜間当直には発熱や腹痛、ときには飲みすぎなど、色んな患者さんをみます。

入院患者さんも色々な病気の方を担当します。例えば心不全や肺炎、糖尿病など…。先日は原因不明の発熱の方を担当し、病気の原因に悩まされていましたが、指導医の先生方と何度も相談して検査を進め

安田 理 医師

Doctor Osamu Yasuda
Profile
高松平和病院 後期研修医
大阪府出身
香川大学2015年卒業
茨木高等学校卒



ていく中で病名を明らかにすることができました。このように検査や治療方針など、まわりの先生方にご指導して頂いたり、カンファレンスで相談したりして毎日がとても勉強になっています。大まかに治療は分かっても、年齢や合併症を考えてどの薬をどれぐらいの量投与すればいいのかなど、分からないことを気軽に聞ける今の環境は、まだ経験も浅く分からないことだらけの私にはとても恵まれていると思います。



▲研修医と指導医

4月から働き始めたばかりですが、皆さんあたたかく私を歓迎して下さり、先生方をはじめスタッフの方々とは時々仕事終わりに飲みに行ってお息抜きもしています。といっても家が遠く、車通勤なので、いつもノンアルコールなのが少し残念なのですが…。このように仕事にプライベートに充実した生活を送らせて頂いています。

様々な疾患をみられる内科医を目指して日々研修中です。一生懸命がんばりますので、これからどうぞよろしくお願い致します。

合格おめでとう会を開催しました。

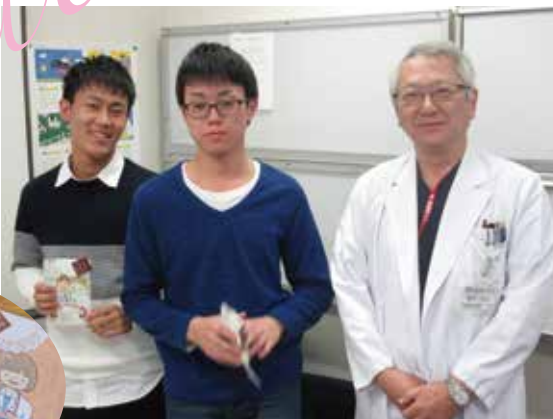
高松平和病院で医師体験や模擬面接に参加してくれた学生さんが
医学科に合格された時には「合格おめでとう会」にお誘いしています。
今年は3回開催し合計で20名(看護学科合格者1名含む)の方が参加してくれました。

合格おめでとう会に集まってくれた学生同士で自己紹介。その後に医師から合格お祝いの言葉と一緒に「図書カード」が一人一人に手渡されました。

自己紹介を終え白衣に着替えた後、医師体験の時には行けなかったホスピス緩和ケア病棟の見学やボランティア体験をしてもらいました。その後、場所を移動して香川大学医学部のすぐ近くにある「学生サポートセンターみき」で先輩の医学生とケーキを食べながら交流してもらいました。入学してからの勉強の事、部活の事、いろいろな相談にのってもらい楽しいひと時を過ごすことができました。



◀お祝いの図書カード ▲院長先生と記念撮影



▲ホスピス緩和ケア病棟の見学

感想

ホスピス緩和ケア病棟の見学をする前は「終末期医療」というイメージが強く、暗いイメージだったが、他の病室とは違った明るい場所で、様々な職種の人々の配慮が行き届いていて、患者さんとその家族を全力で支える姿勢にとても尊敬した。



▲先輩学生と交流

01



高校生 1日医師体験は 毎年夏、春休み開催

- 1回目 ベーシックコース
- 2回目 ステップアップコース
- 3回目以降 アドバンスコース

02



医学科受験模擬面接 (3年生・予備校生対象)

■毎年10月と2月に開催

高校生の広場

Plaza of high school students

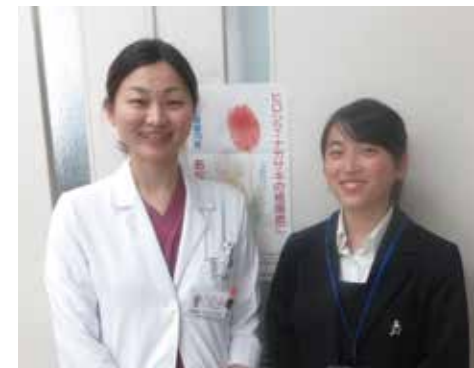
春休み1日医師体験

(香川県内9高校から42名の参加)

今年も高校生を対象とした春休み医師体験を開催しました。

医師体験の参加回数によってコースは分かれますが、OP室見学やギプス体験など貴重な経験が出来たのではないのでしょうか。

同じ高校を卒業された先輩医師との交流や医師が実際に働いている姿をみて更に医学科進学への夢が強くなったようです。



▲先輩医師と交流



▲放射線プロテクター



▲ギプス体験

感想

- 医師の方が幅広い価値観を持っておられたのでとてもためになった。勉強は大変そうだけどやっぱり医師はやりがいがあると思った。
- 今日はぼんやりしていた医師像が何となく分かった気がして大変有意義な時間が過ごせた。
- 医師以外の人たちがどのような仕事をしているのかを知れて参考になった。



【紹介者】
高松平和病院
放射線科
清原 裕貴

すっかり、一つテンヤのとりこになってしまいました。

はじめまして。高松平和病院の放射線科で働いている清原です。診療放射線技師がどのような事をしているかといいますと「レントゲン」「X線透視」「CT」「アンギオ」「MRI」の撮影等、他にも多くの検査に携わっています。幸いな事に今年から新卒技師も増え、MRIの機械も新しくなります。

新卒の技師を見ていると私もこんな頃があったなと思うと同時に「医師から出されるオーダーをよく理解して検査に臨まなければならない」と、先輩技師から教えて頂いた事を思い出して初心に帰る今日この頃…そんな私の趣味は「釣り」です。海釣りを得意とし、シーズンによって色々な種類の魚が釣れるので、暖かくなるとよく船に乗って出かけます。その中でも特に私が好きなのが「一つテンヤ」という釣法で、錘に針が付いている仕掛けを使っています。釣り方は、海底まで仕掛けを落としゆっくり

り竿を振り上げ、また仕掛けを落としていくという釣り方です。探る棚、錘の重さ、針の大きさを試行錯誤して「アタリ」をまっています。魚によってアタリ方が違い、釣り上げるまでいろんなアクションが楽しめます。海底を叩く様に仕掛けを入れる為、ラインが切れたり岩に引っ掛かって仕掛けを無くす事も多くあり、仕掛けも自作する様になりました。これからのシーズンは烏賊、鰐、鰻、根魚等が釣ることが出来ます。皆さんもぜひ釣りを始められませんか。



▲一つテンヤ